

自然館だより

ダルマガク植苗

本館によるダルマガクの植苗は三年目になります。ダルマガクが激減しているからで、角島大橋開通に伴って角島へ来島する人が増加したことに起因していると想像されますが、実証されてはいません。とにかく減少は確かなので、角島の自然をなんとか守りたいからです。



そもそもダルマガクは大陸原産で、響灘や玄界灘、日本海西部でしか見られない植物で、かつて日本列島が大陸の淵にあった証拠であるとも言われています。

第3号

令和3年11月
発行
豊北町自然
観察指導員会
〒759-5332
下関市豊北町
角島 893-1
つしま自然館
083-786-0430
(兼 Fax)

それだけ重要な植物なので絶やすわけにはいきません。

だが、移植には問題があります。移植は場所を移動するだけです。元あった場所には無いわけです。移植から育苗へ活動方針を転換する必要があります。挿し木だけでも増殖させることができるようですが、どこでも良いというわけにはいかないようです。牧崎という限定された場所にダルマガクを繁殖させるにはもっと調査研究が必要のようです。

一泊研修始末記

自然観察指導員会では毎年研修旅行を実施しています。日帰りのことも多いのですが、今年十一月十六日十七日と一泊して豊田、長門を回りました。

山口県最古の正片麻岩を見る

四億年よりさらに前の岩石が山口県にあります。日本列島が大陸の淵にあった頃の話です。それも渋木断層に沿って在るのです。渋木断層がいつのものかわかりませんが、豊田台久下(ひさげ)と美祢平野の二カ所にあります。

中ノ川於福線からゴルフ場の真ん中を抜けて美祢油谷線に至る途中に平野があるのですが、通り過ぎたのもわからず、みつかりませんでした。

車がやっと通れる道を進んで久下に着いたのですが、ここでも石のありかがわかりません。近所の人に人が居たので聞いてみると、「我が家の山にあるんじゃが、やぶになっていてそこまで行けんじゃろう」と言われました。余談ですが、渡辺という方でした。「渡邊」をややこしいということで「辺」にされたという話も聞きました。

角島の瀬戸のわかめは人のむた
荒かりしかど我とはにぎめ
詠み人知らず

万葉集 第16巻(3871)



そこで、別の日に再度「正片麻岩」探しに出かけました。正片麻岩というは花崗岩が圧力や熱で変成したものです。平野のものです。

イチヨウとモミジ

十一月ということで「イチヨウ」と「モミジ」を見ることにしました。

俵山・能満寺のイチヨウ



長門湯本・大寧寺のモミジ



青海島・通のくじら資料館



くじら墓のある丘からくじら館を望む
屋根にクジラの模型が載っているが
写真ではわかりづらい
館内は撮影禁止

くじら墓

通集落の中央の丘に清月庵があります。この境内に「くじら墓」があつて、くじらの胎児を供養しています。母くじらを解体してお腹に宿っていた子くじらを弔(とむら)つたものです。



清月庵は向岸寺の庵で、向岸寺は浄土宗です。墓に刻まれた「南無阿弥陀仏」は鯨といえども極楽浄土に往生できるような祈ったもので、真宗の称名とは趣を異にします。浄土宗の救済信仰は真宗の御恩報謝では代替不可能なのです。ここに鯨回向の成立した由縁があるのでした。